

フィリピン特集



みなさんは「ほうき国連（ハローほうき国際交流連絡会）」をご存知でしょうか。これは西部地区で活動している民間の国際交流団体や、国際交流に興味のある個人で構成されている連絡会です。ほうき国連を立ち上げるきっかけになったのは、2002年国際交流財団の主催で、各国際交流団体に呼びかけ、世界の飲食や屋台を出展したのが始まりです。そのときの盛況ぶりや、珍しさなどからたくさんの人から、またやってほしいという声が多く寄せられたようです。そこで、「ドイツを語る会」の渡邊さんを中心に、主に西部圏域の団体を中心に国際交流連絡会を立ち上げ、自分たちの手でフェスティバルを行おうということになりました。

そして2004年から毎年米子市男女参画センター（サティール4階）において世界の国の踊りや屋台などを出したりパネル展示をしたり、バザーの売上金の一部を災害にあった国に寄付したりしております。

現在、ほうき国連は、約20の団体や個人をもって構成されております。

そして、毎月1回定例会を行っております。自分たちの団体の行事のPRや困ったことの相談事などもあり、言わば、勉強の場でもあるのです。

IEA江府では主に藤原が出席しております。先月、定例会に出席した際に、フィリピン出身の「アイリーン」さんからフィリピンの貧しい子供たちについて話を聴きました。

小学校を1年間通うお金は1万円。高校を1年間通うのに必要なお金は1万5千円。（フィリピンは中学校はないようです）そのお金がなくて学校へ行けない子がたくさんいると聞いてショックを受けました。

そのお金があれば、1年間の授業料や学用品が買え、学校に通えるのに・・・。

そこで、アイリーンさんたちはいろんなイベントなどに出かけ、募金活動をしたりしているようです。彼女の一番の希望としては、フィリピンの子たちに日本の里親がもう少し増えていただけると本当にありがたいなと思っていると言っておりました。

里親を希望すると、米子カトリック教会のシスターが窓口になり、向こうの窓口とのやり取りで生徒が決まり、児童から感謝の手紙をおくってきたり、写真や絵を送ってくれたりするそうです。

みなさん、1年でもフィリピンの子供の里親になってみませんか。

そして、去る6月8日、米子カトリック教会へフィリピン独立記念祭に行きました。

何の問題なく日本人の配偶者として幸せに暮らしているフィリピン人の奥さんは、ほんの一握りだそうなのに、華麗な衣装を身にまとって踊りを踊る彼女たちは眩しいほどきれいで、幸せそうでした。彼女たちの笑顔の下に隠されたいろいろな悩み、心配を少しでも軽くできる方法はないものか・・・。国家レベルの国際交流も大事だけど、身近で小さな交流がどれほど大切なものなのかを考えたら、すこしばかり複雑で悲しくなりました。

そして彼女たちは朝早くからたくさんのご馳走を自分たちでこしらえ、テントに並べ、誰でも料理をいただけるように、声をかける心配りも忘れていませんでした。募金箱に好きなだけお金をいれ、料理をいただく形式になっておりました。

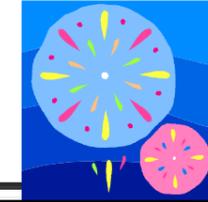
ちょうど、米子市長もおられたので、少しだけ話をさせていただきました。市長は、昔2年半の間フィリピンの日本大使館でお勤めだったということで、独立記念祭には、なるべく都合をつけて参加するようにしているそうです。彼女たちは本当によく頑張っているとも話されておられました。



IEA 江府 ニュースレター

Jul. 30, 2008

Vol. 30



事務局 江府町役場内

Te 10859-75-6111

E mail : kyoko.f@town-kofu.jp



みなさんこんにちは。

このたびの役員改選で、浦部前会長さんの後を受け会長を引き受けることになりました井上弘樹と申

します。微力な私ですが有能な事務局の方々とともに、会員みなさんに少しでも満足していただけるような活動にしていきたいと思いません。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、仕事から子どもたちと一緒に広島市の平和公園や平和記念資料館の見学に行く機会が結構あります。

ご存知のように唯一の被爆国である日本の広島は、世界の「ヒロシマ」として世界各国からの観光客を迎え、昨年は初めて30万人を超えたそうです。

おそらく私が行き始めた20数年前にはその半分以下だろうと思いますが、それでも昔も今も平和公園は外国人と子どもたちが必ず会う場となります。

興味深いのは、子どもが外国人と出会った時の反応の変化です。以前は、物珍しそうに見ているか、「ハロー、ハロー」とやたらと声をかけたがるかのどちらかでした。

おそらく、田舎町に住んでいるので外国人に出会う機会がほとんどなかったためでしょう。しかし、近年多いのは自然にすれ違うだけでほとんど無反応ということでした。

外国人に出会うことはごく普通のできごとなのです。ほんの一面からの見方ですが、子

もたちの国際感覚は確実に成長しています。

これには様々な要因があるでしょうが、その中の一つにALT（英語指導助手）の先生の存在が大きいと感じます。

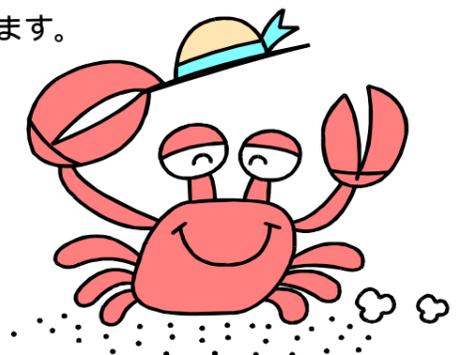
自分の町に外国人の先生が住み、その先生と中学校では毎日、小学校でも英語活動として定期的に共に学習する機会をもってきたことが、子どもたちの国際理解を深める上で大きな力になっていると思います。

ICT（情報通信技術）の発達により、衛星から写された世界中の都市の詳細な写真は、居ながらにして外国の様子を伝えてくれます。

さらに実際に自分が体験して確認できると、また新たな情報が手に入ります。

環境問題を考える言葉に「Think Globally, Act locally」という言い方がありますが、「世界的な広い視野で物事を考え（Think Globally）」、そして、「その中で考えたことをもとに、生活している地域で活動をしていく（Act locally）」ことは外国のことを理解する上でも共通していると思います。

こんなことを考えながら、私たち大人も、子どもたちに負けずに国際感覚を磨いていきたいと思いません。





4月～7月までの事業実施

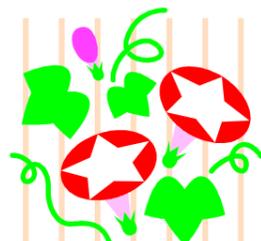


役員会

(4/11 江府町国際交流センター)
平成20年度定例総会について協議しました。

定例総会開催

(5/16 いこいの広場 らんちゅう)
平成20年度定例総会を開催しました。19年度事業報告や決算、監査報告、20年度の事業計画なども承認いただきました。また、今年度は役員改選もありましたが、皆さんの協力により、スムーズに行われました。ありがとうございました。その後、懇親会も行われ、にぎやかで有意義な時間を過ごしました。



国際理解講座 料理講習会

(6月5日～3月5日 江府町総合健康福祉センター 調理実習室)
毎月第1木曜日、韓国料理講習会を開きます。
早速6月5日に行いました。米子からの参加者も4人ほどおられ、みなさんIEA江府の会員になっていただきました。



国際理解講座 文化講座・料理講習会

(6/29 江府町総合健康福祉センター 調理実習室)
「元 JICA (青年海外協力隊) による、ラオス講演会・伝統料理講習会」を開催しました。講師はラオスの小学校に派遣されました、米子市在住の佐々木由希さんです。写真や民族衣装をお持ちいただき、わかりやすく、勉強になった講演会でした。人間は豊かになったからといって、幸せとは限らないということ、貧しさの中でも幸せは存在するんだと最後に話しておられました。今もう一度自分たちを振りかえてみるよい機会になったと思います。料理もシンプルさの中に体を思いやる薬味や知恵が入っていて、とても美味しかったです。JICAに興味のある方は、資料等事務局にありますので、声をかけてください。



ニュースレターの発行

(7/30) Vol. 30を発行しました。



8月～11月までの事業予定



役員会

(8/5 江府町国際交流センター)
今年度の海外研修等について協議します。

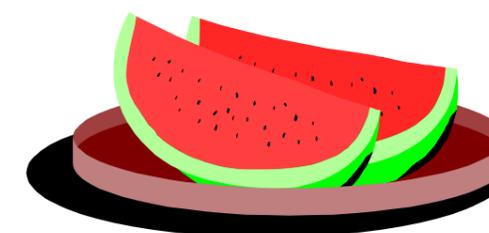


国際理解講座 文化講座

(8月23日(土)) 毎年、夏にネパールから皆生の海を守るボランティアの活動のために来日される「ロク」さんが今年も来日されました。昨年、米子でロクさんの講演会を聞いて (VOL. 27に講演会の感想を書いています) ととても感動しましたので、ぜひ今年は江府町でもしていただけるよう、昨年話をしました結果！なんと実現することになりました。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

海外研修 10月に行う予定です。

決まりましたらお知らせします。



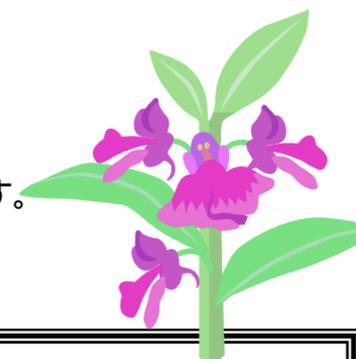
ハローほうき国際交流フェスティバル2008

恒例のフェスティバルになってきました。10月26日(日) 11時から米子男女参画センター(米子サティ4階)において盛大に行おうと各団体で力をあわせております。みなさん、ぜひお越しください。

会員研修・懇親会

11月下旬を予定しています。日程等後ほどご案内します。

ニュースレター (Vol. 31) 11月末発行予定。



会員の皆さんへお願い。

IEA江府も設立から8年になり、小さい町ながらも特色ある国際交流を行ってきたと思います。みなさんは年間の行事が毎年同じような感じを受けていませんか？もし、やってほしい事業などがありましたら、何でもいいですので、事務局にお知らせくださいませ。